

黒滝白きゅうりの産地振興

要約

平成 26 年 12 月 24 日に黒滝白きゅうりが大和の伝統野菜に認定されブランド力が向上したが、まだ出荷量が少ない。また、自家採種し栽培のため、系統のバラツキが見られる。

系統にバラツキが見られるため、採種・育苗ほを設置し採種から育苗までを一括管理することで、形質の安定させ、生産量の増加を図る。

現状(背景)と課題

- ・採種・育苗ほ：0か所
- ・生産量：0.8 t



目標

- ・採種・育苗ほ：1か所
- ・生産量：1 t

活動内容

- ・苗配布前の 4 月に生産者を対象として対して、仕立て方や病害虫対策を説明。
- ・種の形質を安定させるための、採種・育苗ほの設置。
- ・他品種との交配を防ぐために、人工授粉の方法について指導。
- ・生産者を対象として、栽培管理・生育状況の調査および巡回指導。

成果

- ・採種・育苗ほを 1 か所設置し人工授粉をおこなうことで、約 3000 粒の種子が得られた。
- ・生産量は病害の多発により、0.9 t と目標収量に至らなかった。



採種・育苗用のビニールハウス（2棟）



人工授粉の実演指導（7月28日）



指導巡回の様子



黒滝白きゅうり着果状況

普及活動のポイント

- ・高齢の生産者が中心となるため、各生産者のほ場で栽培状況の説明を丁寧におこなった。
- ・人工授粉のやり方を実演指導した。

対象の変化

- ・自家採種では他品種との交雑が起こり、形質にバラツキが出ることを認識した。
- ・病害虫の対策のポイントを認識した。

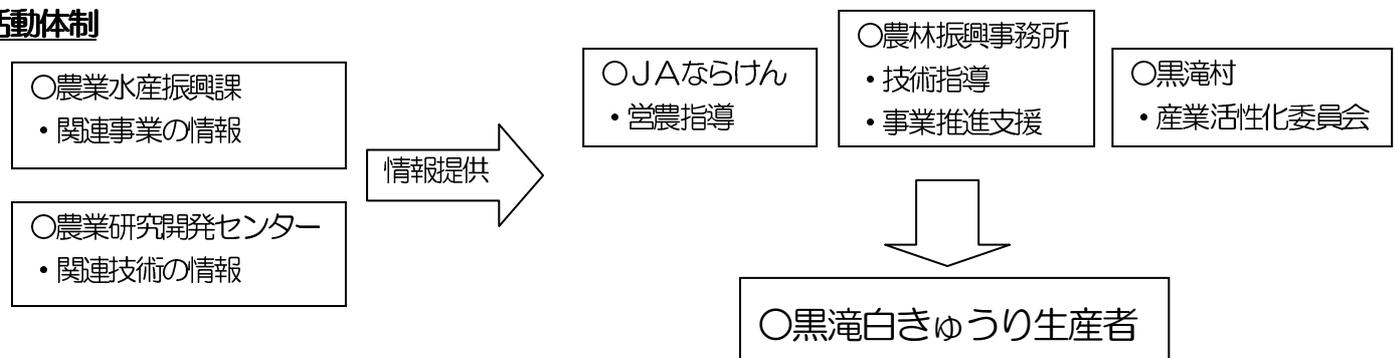
対象者からのコメント

- ・生産者全体の栽培技術が向上した。
- ・6月から9月にかけての低温と多雨により栽培を早く切り上げる生産者が見られたことから、天候によって現地巡回の時期を調整したほうが良いのではないかと。

これからの活動ビジョン

- ・採種用ハウスの中で人工授粉を実施して得られた種子から育苗・栽培して、採種ハウス設置により黒滝白きゅうりの形質が維持できていることを確認する。
- ・生産者によって仕立て方が異なっていたので、収量性向上のために、現地実証試験による黒滝白きゅうりに最適な仕立て方の確立を図る。
- ・山間地の限られた面積で栽培していることから、農地利用率の向上と病害の発生軽減による生産量の増大を図るために、6月は種（晩播）の栽培試験を実施する。
- ・講習会や現地巡回により、病害虫の適期防除の啓発をおこなう。
- ・出荷規格を見直し、生産者が収穫適期を逃さないために出荷目揃え会を開催する。

活動体制



用語解説

○産業活性化委員会
黒滝村役場が事務局、奈良県、株式会社黒滝森物語村がオブザーバーとなり黒滝村に関わる事業を話し合う会議。

南部農林振興事務所農業普及課
担当：農産物ブランド推進係 森岡・櫻井・梨原
大和野菜ブランド力向上事業